

平成 29 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 29 年 10 月 2 日（月）

開会：午後 7 時 00 分 閉会：午後 7 時 57 分

場所：北大社構造改善センター

参加者：男 25 人、女 5 人 計 30 人（うち職員 4 人）

町職員：町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、政策課員

○懇談

男性（1） ぶどう、ブルーベリーですが今後どのようなかたちで展開していくのですか。

建設部参事 今長深の耕作放棄地でぶどう 5a、ブルーベリー 5a、合計 10a でやっております。まだまだ長深地区では耕作放棄地があり、今年整えまして、来年には苗木を植えれるところが 6 反ほどあります。ここを、若い農業者にこれまでのノウハウを教えながらまずやっていただきます。それから各地区の担い手農家の方にも参加していただき、在来地区全体に広げていきたいと思っております。しかしながら一気にはいけませんので、少しずつでも儲かる農業に転換していきたいと考えています。よろしく願いいたします。

男性（2） 今年陸上競技場の北側の道路に、雑草対策としてセンチビートグラスティフブレアのふきつけをされたと思うんですが、あれを主要町道の法面に広げていくという計画はありますか。

町長 一応実証実験でやらせていただきました。今後、その結果を見て上手く雑草が抑えられて、草刈りを含めて雑草対策が上手く安価にできれば少しずつですが広げていきたいと思っております。町道延長二百数十キロありますので、一気には無理ですが、上手くいくのであれば少しずつ広げていきたいと考えていますが、今のところはまだ完全予算化まではいたっていません。まだ実験段階というところです。

男性（3） その件についてですが、それをどんどん進めていくと、これまであった植物がなくなり、自然荒廃が進んでいくことにはならないのですか。

町長 まだその辺の検証も済んでいません。まだ実験を開始したばかりですので、今後進めていくのかは検証段階です。他にも 2、3カ所で検証を行い、その検証の中で自然環境についても考えます。実際に広範囲で行われている明和町へ視察に行ったのですが、確かに雑草を抑える効果はありそうだなと思いました。ただ、それも 5 年 10 年たって本当に抑えられているかというところ、この工法が取られてから、まだ日が浅いの

で分かりません。上手くいったからすぐ進めていくわ、と簡単に進めていくことにはならないと考えています。

男性（４） 北大社から役場の前まで道がありますが、その途中にある戸上川の看板の文字が消えています。また役場の方に来ると総合文化センターの看板の文字が消えていますし、山田の看板も消えていますので一回総点検してもらえませんか。

副町長 関係部署で一度確認してみます。
他にご意見もないようですので、建設部参事から新しい農業についてももう少し詳しくお話させていただきます。

建設部参事 町長からもお話がありました新しい農業についてももう少しお話させていただきます。東員町の行政面積は 2,268 h a しかございません。そのなかで農地が 700 h a です。この農地では、昔から米や減反によります麦、大豆を栽培しています。そんな中で、なかなか儲けが薄いこの農業に、若者がなかなか魅力を感じられず、農業の担い手が高齢化し次の後継者がいないという状況になっています。こんな状況の中で、将来東員町の 700 h a の農地を誰が守っていくんだ、農業の担い手もおらず農地があれてしまうということを危惧いたしまして、3 年前から長深地区の一部の耕作放棄地を利用して、ぶどう、ブルーベリーを植えまして、今年ようやく収穫することができました。今後この果実を利用して町の特産物を作っていこうと考えています。今年は町内の洋菓子屋に果実を持ち込んで試作してもらいました。この試作も、すぐにでも商品として売れるくらいのもので作っていただきました。来年以降も頑張って農園の管理をしていこうと思っております。今はブルーベリーやぶどうですが、今後はトマト、イチゴなど広げていきたいなと思っております。

この果樹栽培は、施設への初期投資にお金がかかりますので、すぐに広げていくのはなかなか難しいと思いますので、現在行われている水田農業、大豆に目をつけさせていただきます。東員町では、150 h a ぐらいで大豆をつくっているんですが、全国平均の三分の一に満たない収穫量しかありません。これは、恐らく減反政策の一環として作っているだけで、大豆栽培にそこまで力が入っていないというのも一つの原因だと思います。これを何とかできないかということで、四日市市で大豆を使った製品を作っている会社がありまして、その社長と、大豆をまるごと使った製品の販売を東員町でできないか何度かお話させていただいております。大豆の製品というのは豆腐、大豆、揚げですが、普通豆腐というのはつくりますとおからが出て、そのおからに栄養が持っていかれてしまいます。さらにおからは産業廃棄物ですので処分にお金がかかります。しかし、この企業が開発した機械を使いますと、おからがでない豆腐が作れます。おからに栄養素が持っていかれず、栄養が詰まった豆腐ができ、販売価格もそれなりに見込めます。こういったこともありまして、大豆を使った製品で 6 次産業化をはかり、農業の儲けにつなげていくことに取り組んでいます。こうした儲か

る農業の展開で、地域の農業の活性化や、新たな産業や雇用の機会が生まれます。そういったことで、今年度から新産業創造プロジェクトチームで頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

・懇談による意見

1. ぶどう、ブルーベリーについて
2. 雑草対策について
3. 川や字の看板の文字について